

- 問1 日本の原子力発電所が、大都市圏から離れた海岸部に集中して立地している主な理由として、適切な説明はどれですか。（2019年 岩手県公立入試 類似）
1. 発電時に発生する熱を冷却するために大量の海水を必要とし、かつ安全性を考慮して人口密度の低い場所が選ばれるため。
 2. 潮の満ち引きを利用してタービンを回転させるため、常に一定の波がある開放的な海岸線が適しているため。
 3. 広大な敷地を確保するために、地価の高い都市部を避けて山が海に迫るリアス海岸の奥地に建設するため。
 4. 燃料となるウランは非常に重いため、内陸部への輸送を避けて港のすぐ近くで発電を行う必要があるため。
- 問2 山形県で生産が盛んな果実であるさくらんぼ、ぶどう、りんご、西洋なしの統計を比較した際、栽培面積に対する収穫量の割合、つまり「単位面積あたりの収穫量」が最も高く、高い土地生産性を示している果実はどれですか。（2026年 京都府公立入試 類似）
1. ぶどう
 2. りんご
 3. 西洋なし
 4. さくらんぼ
- 問3 複数の農作物の県別生産割合（％）を示した帯グラフを用いて、ある県が生産量が最も多い作物を特定しようとする際、帯グラフの区分の長さ（割合）だけでなく、必ず確認しなければならない数値はどれか。（2024年 青森県公立入試 類似）
1. その県の農家一戸あたりの耕地面積
 2. その作物の全国総生産量
 3. その作物の輸入量と輸出量の差
 4. その県の前年の生産割合
- 問4 ある地域の人口の変化について、出生数と死亡数の差によって生じる人口の増減を「自然増減」と呼ぶのに対し、転入数と転出数の差によって生じる人口の増減を何と呼びますか。最も適切な用語を選びなさい。（2024年 栃木県公立入試 類似）
1. 年齢別増減
 2. 社会増減
 3. 移動増減
 4. 経済増減
- 問5 IC（集積回路）などの電子部品の輸出において、輸送費が高い航空輸送が多く利用される理由を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2015年 長崎県公立入試 類似）
1. 製品そのものが非常に重く、大型船の積載制限を避けて空路を利用する必要があるから。
 2. 一度に運べる製品の総重量が海上輸送よりも大きいため、輸出効率が良いから。
 3. 製品が軽量かつ高付加価値であり、高い輸送コストを払っても短時間で届けるメリットが大きいため。
 4. 海上輸送に比べて輸送中の温度管理や振動対策にかかる費用を大幅に安く抑えられるから。
- 問6 日本において、自動運転技術やICTを活用した「スマート農業」の普及が急務となっている背景として、最も適切な説明はどれですか。（2024年 山梨県公立入試 類似）
1. 農業従事者の減少と高齢化により、労働力の確保が困難になっているため。
 2. 外国産農産物との価格競争に勝つため、農業の使用量を増やす必要があるため。
 3. 都市部への人口集中により、農産物の需要が大幅に減少しているため。
 4. 地球温暖化の影響で、日本国内での熱帯作物の栽培が主流になったため。
- 問7 日本の産業構造において、サービス業や情報通信業などが分類される「第3次産業」に該当する業種の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2024年 愛媛県公立入試 類似）
1. 製造業、建設業、鉱業
 2. 卸売・小売業、金融・保険業、宿泊・飲食サービス業
 3. 農業、林業、漁業
 4. 電気・ガス・水道業、食料品製造業、土木建築業
- 問8 日本の九州地方には多くの火山が存在しており、地下の熱や水蒸気を利用した発電所が複数立地しています。この地域特性を生かした再生可能エネルギーによる発電方法として最も適切なものを1つ選びなさい。（2025年 岩手県公立入試 類似）
1. 風力発電
 2. バイオマス発電
 3. 地熱発電
 4. 水力発電
- 問9 日本の人口問題を整理した資料では、都市部での過密化やドーナツ化現象が起こる一方で、地方では産業の衰退や過疎化が課題となっています。こうした背景から各地で行われている、地域の自然環境を活かした地域活性化の事例として、最も適切なものはどれですか。（2023年 大分県公立入試 類似）
1. 北陸地方において、夏の涼しい気候を活かした伝統工芸品の生産を強化する
 2. 伝統行事の少ない地域において、海外から新しい祭りを導入して観光客を呼び込む
 3. 四国地方において、徳島・香川・愛媛・高知の全県と本州を直接結ぶ橋を建設する
 4. 北海道において、季節が逆になることを利用して、南半球からのスキー客を誘致する
- 問10 日本の食料自給率に関する統計において、1970年には約90%であった自給率が、食生活の変化などを背景に2015年には約40%まで低下した品目があります。この品目は、国内生産量が約400千トンで推移しているのに対し、国内消費量が約1400千トンにまで急増していますが、該当する畜産物として正しいものを選択してください。（2018年 和歌山県公立入試 類似）
1. 鶏卵
 2. りんご
 3. 米
 4. 牛肉
- 問11 日本の主要な工業地帯・地域における製造品出荷額の内訳を比較したとき、自動車産業などの「機械工業」が全体の約67パーセントと極めて高い割合を占めている工業地帯はどこですか。最も適切な名称を選びなさい。（2018年 徳島県公立入試 類似）
1. 中京工業地帯
 2. 京浜工業地帯
 3. 阪神工業地帯
 4. 北九州工業地帯
- 問12 卵からかえったばかりの稚魚や稚貝を、外敵の少ない環境で人工的に一定の大きさまで育てた後、自然の海や湖へ放流し、十分に成長してから漁獲する漁業を何といいますか。適切なものを選びなさい。（2023年 滋賀県公立入試 類似）
1. 沖合漁業
 2. 栽培漁業
 3. 遠洋漁業
 4. 養殖業
- 問13 日本の貿易において、航空機を利用した輸出が積極的に行われている品目の特徴とその代表的な製品の組み合わせとして、最も適切なものを選びなさい。（2018年 北海道公立入試 類似）
1. 小型で軽量かつ高価な製品 — 半導体などの電子部品
 2. 大型で重量があり高価な製品 — 自動車
 3. 重量があり安価な資源 — 鉄鉱石
 4. 保存が利き大量輸送が必要な食料 — 小麦
- 問14 日本の農業において、ロボット技術を活用した機械化を進めたり、農家一戸あたりの農地面積や家畜の飼養頭数を増やしたりして生産性を高める取り組みを何といいますか。（2026年 宮崎県公立入試 類似）
1. 海外への輸出を増やす取り組み
 2. 地産地消を促進する取り組み
 3. 農業の規模拡大
 4. 空き地を農地にする取り組み

答え合わせ・解説

問1	答え 1 発電時に発生する熱を冷却するために大量の海水を必要とし、かつ安全性を考慮して人口密度の低い場所が選ばれるため。	原子力発電は、核分裂で発生する熱を利用して蒸気をつくり発電しますが、その蒸気を冷やして水に戻すために膨大な量の冷却水を必要とします。日本ではこの冷却水に海水を利用するため、必ず海岸部に立地します。また、事故が起きた際の影響を最小限に抑えるという安全上の観点から、都市部から離れた人口密度の低い地域が選ばれています。
問2	答え 3 西洋なし	山形県の果樹栽培において、さくらんぼは栽培面積が約2,880ヘクタールと最大ですが、西洋なしは面積が約823ヘクタールと4品目の中で最小です。しかし、西洋なしの収穫量は13,200トンに達しており、1ヘクタールあたりの収穫量を計算すると、広大な面積を持つさくらんぼ等よりも効率よく生産されていることがわかります。このように、収穫量の絶対数だけでなく栽培面積との比率を見ることで、農産物の生産性の違いを分析することができます。
問3	答え 2 その作物の全国総生産量	各県の「実質的な生産量」を知るためには、「割合（％）」に「全体量（全国総生産量）」を掛け合わせる必要がある。例えば、割合が小さくても全国総生産量が非常に多い作物の場合、実数は大きくなる可能性があるため、割合を示す帯グラフだけでは生産量の多寡を正確に比較することはできない。
問4	答え 2 社会増減	地域の人口変化（総人口の増減）は、出生と死亡という生命の営みに基づく「自然増減」と、進学・就職・転勤といった居住地の移動に基づく「社会増減」の2つの要素の合計で決まります。日本全体では自然減が続いていますが、地域ごとに見るとこの2つの要素の傾向は大きく異なります。
問5	答え 3 製品が軽量かつ高付加価値であり、高い輸送コストを払っても短時間で届けるメリットが大きいため。	電子部品はサイズが小さく軽量でありながら、高度な技術が用いられているため価格が高い「高付加価値製品」です。このような製品は、輸送費用が多少高くなったとしても、航空機で迅速に運ぶことで、流行の変化が激しい市場へ即座に供給したり、在庫を抱えるリスクを減らしたりすることが可能です。重量が重いものや価格が安いものを航空機で運ぶと、利益が輸送費で相殺されてしまうため、航空輸送には向きません。
問6	答え 1 農業従事者の減少と高齢化により、労働力の確保が困難になっているため。	日本の農業は、担い手の不足という構造的な問題を抱えています。特に山間部や果樹栽培が盛んな地域では、労働の負担が大きく、高齢の農家だけでは維持が困難な状況にあります。そのため、省力化（人手を減らすこと）を可能にするスマート農業の導入により、一人が管理できる面積を広げ、農業を継続可能な産業にすることが求められています。
問7	答え 2 卸売・小売業、金融・保険業、宿泊・飲食サービス業	産業は大きく3つに分類されます。第1次産業は自然界から直接資源を採取する農業や漁業など、第2次産業はそれらを加工する製造業や建設業を指します。第3次産業はこれら以外の、形のないサービスを提供する産業の総称であり、商業（卸売・小売）や金融、情報通信、教育、医療などが含まれます。経済が発展するにつれて、第3次産業に従事する人の割合が高まる傾向にあります。
問8	答え 3 地熱発電	火山地帯の地下にあるマグマの熱を利用して水蒸気を発生させ、タービンを回して発電する仕組みを地熱発電と呼びます。火山が多く存在する九州地方などに多く立地しており、環境負荷が低い再生可能エネルギーとして注目されています。
問9	答え 4 北海道において、季節が逆になることを利用して、南半球からのスキー客を誘致する	北海道では、北半球と南半球で季節が反対になるという地理的・自然環境の特性を活かし、オーストラリアなどの南半球からの観光客を冬のスキー客として誘致する取り組みが盛んです。これにより、かつては国内客中心だった観光産業が国際的な規模に拡大し、地域の雇用創出や経済の活性化に大きく寄与しています。
問10	答え 4 牛肉	1970年代から2015年にかけて、日本の食生活が欧米化したことで肉類の消費量が飛躍的に増加しました。特にこの品目は、国内での生産が消費の伸びに追いつかず、さらに安価な外国産の輸入が拡大したことで、自給率が大幅に低下しました。資料上の数値で消費量が生産量の3倍以上に達している点は、輸入への依存度の高さを示しています。
問11	答え 1 中京工業地帯	中京工業地帯は、愛知県を中心に自動車や航空機といった機械工業が高度に発達しており、その製造品出荷額は全国でも首位を維持しています。統計資料においても、機械工業が約3分の2（67％）という圧倒的な割合を占める点が、他の工業地帯との決定的な違いです。
問12	答え 2 栽培漁業	卵から稚魚になるまでの最も生存率が低い時期を人間の管理下で育てることで、水産資源を効率的に増やそうとする取り組みです。成魚になるまで生け簀（いけす）などで育てる養殖業とは異なり、一度自然界へ戻す点が大きな特徴で、「育てる漁業」の代表例といえます。
問13	答え 1 小型で軽量かつ高価な製品 — 半導体などの電子部品	航空輸送は船舶輸送に比べて迅速に運べますが、重量あたりの輸送コストが高くなります。そのため、半導体などの電子部品や精密機器のように、軽くて小さく、かつ価格が高い（高付加価値）製品の輸出に適しています。自動車や鉄鉱石のように重量があるものは、コストを抑えられる船舶で輸送されるのが一般的です。
問14	答え 3 農業の規模拡大	ロボットトラクターの導入などの機械化を進めたり、一戸あたりの飼養頭数や耕作面積を増やしたりして経営の規模を大きくすることを、農業の規模拡大と呼びます。これにより、少ない労働力で高い生産性を目指しています。